

A区分・C区分共通
No.1(実演芸術・メディア芸術)

令和7年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調書(実演芸術・メディア芸術 共通)

別添	あり
----	----

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	伝統芸能	種目	歌舞伎・能楽
----	------	----	--------

応募区分(応募する区分を選択してください。)

応募区分	A区分
------	-----

複数応募の状況(該当するものを選択してください。) ※B区分継続団体については、応募企画数から除く

複数応募の有無	有	応募総企画数	4企画
---------	---	--------	-----

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数応募の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	公演の実施時期が重複しても、複数の企画を実施可能
--------------------	--------------------------

文化芸術団体の概要

ふりがな 制作団体名	こうえきざいだんほうじんやまものうがくどう 公益財団法人山本能楽堂		団体ウェブサイトURL http://noh-theater.com
	代表者職・氏名 代表理事・山本旭彦		
制作団体所在地	〒 540-0025	最寄り駅(バス停)	谷町四丁目(大阪メトロ)
	大阪市中央区徳井町1-3-6		
電話番号	06-6943-9454		
ふりがな 公演団体名	こうえきざいだんほうじんやまものうがくどう 公益財団法人山本能楽堂		団体ウェブサイトURL http://noh-theater.com
	代表者職・氏名 代表理事・山本旭彦		
公演団体所在地	〒 540-0025	最寄り駅(バス停)	谷町四丁目(大阪メトロ)
	大阪市中央区徳井町1-3-6		
制作団体 設立年月	1927年11月		
制作団体組織	役職員 代表理事 山本旭彦 理事: 柴田仁、鳥井信吾、平岡龍人、 野村明雄、立野純三、梅若桜雪 監事: 春好崇樹、谷岡弘邦		団体構成員及び加入条件等 広く一般
	事務体制 事務(制作)専任担当の有無	事務(制作)専任の担当者 を置く	本事業担当者名 山本佳誌枝
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理担当者 坂東敏夫	
本応募にかかる連絡先 (メールアドレス)	info@noh-theater.com		

<p>制作団体沿革・主な受賞歴</p>	<p>【沿革】 昭和2年4月 「山本観衛舎」を現在地に創設。 昭和20年3月 大阪大空襲により焼失 昭和25年4月 全国に先駆けて舞台を再建。「山本能楽堂」と名称変更。 平成18年2月 財団法人 山本能楽会の認可を大阪府教育委員会より受ける。 平成18年12月 文化審議会より国登録文化財の指定を受ける 平成23年2月 内閣府より認可を受け、公益財団法人山本能楽堂に名称を変更 【主な受賞歴】 平成21年 パナソニック教育財団奨励賞、平成23年 第42回博報賞 平成24年 関西元気文化圏賞特別賞、平成24年 ティファニー財団伝統文化大賞 平成26年 国土交通大臣表彰「手作り郷土賞」、平成27年日本水大賞「未来開拓賞」 平成28年 国際交流基金地球市民賞 平成29年 第1回「はなやかKANSAI魅力アップアワード」～関西インバウンド大賞受賞(近畿産業経済局)、 平成29年 外務大臣表彰、グッドデザイン賞2017 令和2年 グッドデザイン賞2019 令和3年 大阪文化賞</p>		
<p>学校等における公演実績</p>	<p>○これまでに全国約300校の小学校・中学校・特別支援学校で能の公演を実施。 ○大阪府内の約800 の小学校・中学校・高等学校・特別支援学校で公演を実施。 ○平成23年～25年度 日本文教出版「小学社会6年上」の教科書表紙に採用される。 令和6年度から3年間も日本文教出版「小学社会6年上」の教科書表紙に掲載予定。 ○平成26年度より、日本文教出版「小学社会6年上」の教科書の、「鎌倉室町時代」の学習の中の「ふりかえりシート」の作成に協力 ○平成27年度からはデジタル教科書の制作に協力し映像に出演。 ○大阪天王寺高校、大谷高校、大手前高校、私立高槻中学校、市立山滝中学校、奈良県結崎小学校、大阪市立中大江小学校、興国高等学校、大阪外語専門学校等、小学校から大学、専門学校まで多彩な公演実績。 ○修学旅行生などの能楽体験の受入（国内・海外とも） ○韓国訪日研修団による教員、大学生、高校生の受入 ○毎年、校区内の小学校5年生を対象に、能の授業を実施しており、校区外の学校にも、その範囲が増えつつある。 *別添あり</p>		
<p>特別支援学校等における公演実績</p>	<p>◆大阪府立富田林支援学校 半能「小鍛冶」 福岡県立直方養護学校 半能「小鍛冶」 栃木県立足利特別支援学校 半能「羽衣」 山梨県立盲学校 半能「羽衣」 千葉県立船橋特別支援学校 半能「羽衣」 東京都立八王子東特別支援学校 和泉支援学校 大阪市立思斉特別支援学校 大阪市立難波特別支援学校 大阪府立高槻支援学校 大阪府立佐野支援学校 大阪府立摂津支援学校 大阪府立富田林支援学校 大阪府立とりかい高等支援学校 大阪府立高槻支援学校中等部 大阪府立泉北高等支援学校 大阪府立高槻高等支援学校 大阪府立平野支援学校 大阪府立大阪視覚北支援学校 堺市立百舌鳥支援学校 大阪府立交野支援学校高等部 大阪府立大阪南視覚支援学校 大阪府立生野視覚支援学校 大阪府立八尾支援学校高等部 大阪府立摂津支援学校中等部 大阪府立寝屋川支援学校中等部 大阪府立寝屋川支援学校商学部 など ◆特別支援学校の先生のご発案により、史上初の能楽の無料楽器演奏アプリ「OHAYASHIsensei」を開発し、能の音楽の普及につとめてきた。 ◆特別支援学校での本アプリ活用の事例が全国的に広がりつつある。 別添あり</p>		
<p>参考資料の有無</p>	<p>申請する演目のWEB公開資料</p>	<p>有</p>	
	<p>※公開資料有の場合URL</p>	<p>https://youtu.be/UvgZpwwQ1M</p>	
	<p>※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード</p>	<p>ID:</p>	<p>なし</p>
		<p>PW:</p>	<p>なし</p>

別添	あり			
公演・ワークショップの内容		【公演団体名 公益財団法人山本能楽堂】		
対象	小学生(低学年)	○	小学生(中学年)	○
	小学生(高学年)	○	中学生	○
企画名	伝統芸能と遊ぼう！～能「土蜘蛛」と狂言「柿山伏」			
企画のねらい	<p>・初めて伝統芸能に触れる子ども達が、自ら興味・関心を持ち、楽しんで参加することを目的に、子ども達が理解しやすい日常生活と関連づけて、テンポよく、中身を凝縮させて、あきることなく、自分事として考えられるよう内容を企画する。</p> <p>・日本の伝統芸能をはじめ、あらゆる芸術の根源と言われている能楽について、能と狂言の両方の魅力をかけ合わせて紹介し、その違いや、伝統芸能の表現の豊かさ、多様性を子ども達に伝える。能楽全体について一度に学ぶ機会とすることが可能となる。</p> <p>・能の中で最もスペクタクルで人気演目の能「土蜘蛛」と、教科書に掲載されている狂言「柿山伏」の両方を上演することで、より子ども達の興味を引き出し、理解を深める。</p>			
演目概要・演目選択理由	<p>【能「土蜘蛛」のお話】 源頼光が原因不明の病で寝込んでおり、侍女の胡蝶が持ってきた薬を飲んでも病はますます重くなるばかりです。ふと頼光が庭先を見ると、怪しげな僧(前シテ)が立っており、無数の蜘蛛の糸を頼光に投げかけ、襲いかかってきました。頼光は、枕元にあった名刀、膝丸を抜き払い、斬りつけました。物音をきき駆けつけた独武者は目ざとく血痕を見つけ、怪物の行方をつきとめようとその跡をたどると葛城山に着き、化け物の巣が現れました。これを突き崩すと、その中から土蜘蛛の精が現れ、千筋の糸を投げかけて独武者たちを苦しめ、手こずらせますが、大勢で取り囲み、ついに土蜘蛛を退治します。</p> <p>【狂言「柿山伏」のお話】 山伏が修行から帰る途中、のどが乾き、木に登って柿を食べていました。ところが、それを柿畑の持ち主に見つかってしまいます。畑主は、からかってやろうと、柿の木に登っているのは犬だ、猿だ、鳥だと言いい、山伏はそれらの動物の鳴き真似でその場を凌ぐものの、最後には罵は飛ぶものだ、と言われ、大怪我をしてしまい悪事がばれてしまいました。</p> <p>①能「土蜘蛛」は、能の中で最もスペクタクルで、初めて能を鑑賞する子供たちの入口として最適である。 ②開催校によってはその地方独自の化け物退治の話が残っていて、その地の歴史と連動させる可能性がある。また、謡の部分は日本人特有の美しい詞章であり、能の持つ優美な世界を容易に連想することができる。 ③また、「土蜘蛛」は能を代表するに人気演目であり、能以外の様々な舞台芸術や美術で取り上げられる題材であり、「土蜘蛛」を体験しておくことでその後の芸術鑑賞の幅が広がる。 ④「柿山伏」は、わかりやすい筋書きになっており、単純な笑いに満ちているので、子ども達にもとつきやすい内容になっている。また、途中に、カラスやサル、犬、鳥の真似をするが、「真似をする」という行為は、様々な舞台芸術の基礎にあるものであり、子どもたちが面白がって「物まね」を真似ることで、豊かな感受性が育まれる。教科書にも掲載されており、子供たちがより親しめる。 ⑤能「土蜘蛛」も狂言「柿山伏」も、どちらも能そのもの、あるいは狂言そのものを表現する代表的な演目であり、能と狂言の基本的な魅力を子どもたちが学び、楽しみ、またそれぞれの芸能の違いや特色も体感でき基本的な能と狂言の演目を、鑑賞する機会となる。 *別添あり</p>			
児童・生徒の参加又は体験の形態	<p>1.ワークショップにて能の中の謡を子どもたちが体得し、謡を謡うことで、能の中により感情移入ができ、能を理屈ではなく、体で理解し、楽しむことができる。必要であれば、ひらがなでわかりやすく「字幕」の掲示も可能。(コロナが収束していなければ声を出さずに参加)</p> <p>2.能の楽器である囃子のリズム体験ならびにリズム遊びにより、西洋音楽とは異なる、日本古来の音楽を体感する。</p> <p>3.能と狂言の型(所作)のワークショップにより、日本の古典芸能の演劇としての基本に触れ、西洋の演劇とは違う、簡略化し昇華した演劇の表現法を自然に子供達が学ぶ。同時に、能と狂言の表現の違いも体験する。</p> <p>4.能の基本ともいえる「すり足」を子ども達が体験する事で、日本人として体の使い方を習得する。また「すり足」は、茶道や武道など他の日本文化の基本となり、「すり足」を体験する事で、その後あらゆる日本文化に興味を持つことができるよう促す。</p> <p>5.ワークショップや公演の終了後も、興味を深めることができるよう、ゲーム感覚で遊びながら能の謡や楽器演奏、能の知識が学べる3種類のアプリ、5分間の短い動画20本(「能の5分間」)、3D能面2種類(小面、般若)をフォローアップ教材として活用する。</p> <p>6.能の上演のために能舞台を設え、能舞台の案内や、帰宅後学習として3D能楽堂で能楽堂を歩くように楽しめるよう促す。 *別添あり</p>			
児童・生徒の参加可能人数	本公演	参加・体験人数目安	10人から600人程度	
		鑑賞人数目安	10人から600人程度	
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	<p>【能と遊ぼう！ 狂言「柿山伏」と能「土蜘蛛」】 ①始まりの挨拶(能のお稽古は必ず挨拶から始まります) ②能・狂言のお話(歴史、なりたち、能の中のそれぞれの役割分担など) ③「土蜘蛛」の謡の練習 ④狂言の説明と体験・全員で名のり(自己紹介)の体験、泣く・笑うの体験、狂言の型の説明 ⑤狂言「柿山伏」の上演 ⑥能「土蜘蛛」のお話 ⑦能の囃子(楽器)の解説(笛、大鼓、小鼓、太鼓) ⑧能「土蜘蛛」の鑑賞 ⑨質問コーナー*子ども達のあらゆる疑問にお答えします。 ⑩終わりの挨拶 【演目】 能「土蜘蛛」 /作者不明 素材・「平家物語」剣の巻 狂言「柿山伏」 /本狂言の中の鬼山伏狂言 *別添あり</p>			
		公演時間	90 分	

<p>出演者</p>	<p>○シテ方 山本章弘、杉浦豊彦、吉井基晴、大西礼久、梅若基徳、今村一夫、井戸良祐(以上 重要無形文化財総合指定保持者)、前田和子、武田崇史、藤井丈雄、笠田祐樹、山本麗晃(うちシテ・ツレ 3名、地謡 5名、後見 2名、ハタラキ1名) 計11名 ○ワキ方 原大、有松遼一、原陸、岡充、福王知登、喜多雅人、矢野昌平など 計 2名 ○狂言方 善竹隆司、善竹隆平、上吉川徹、茂山千之丞、鈴木実(大蔵流) または野村太郎、月崎晴夫(和泉流)等 計 3名 ○囃子方笛、大鼓、小鼓、太鼓:槌矢 亮、守家由訓、古田知英、井上敬介、中田弘美(以上重要無形文化財総合指定保持者)、斉藤敦、林大和、など 計 4名</p>					
<p>演目の芸術上の中核となる者(メインキャスト、メインスタッフ、指揮者、芸術監督等)の個人略歴 ※3名程度 ※3行程度/名</p>	<p>■山本章弘/観世流能楽師シテ方。重要無形文化財総合指定保持者。故観世流二十五世観世左近、二十六世観世宗家観世清和に師事。公益財団法人能楽協会理事、公益財団法人山本能楽堂代表理事。初舞台は三歳。関西大学文学部卒業。山本能楽堂を中心に「現代に生きる魅力的な芸能」として能の普及と継承につとめる。大阪文化賞、外務大臣表彰、博報賞など受賞多数。 ■杉浦豊彦/観世流能楽師シテ方。重要無形文化財総合指定保持者。故観世流二十五世観世左近、二十六世観世宗家観世清和に師事。「道成寺」「翁」「卒都婆小町」など 240番の演能を果たす。祖母は、京舞井上流 人間国宝 四世井上八千代。 ■守家由訓/観世流大鼓方(宗家預り) 重要無形文化財保持者(総合認定)一般社団法人阪神能楽囃子連盟調和会 代表理事 公益社団法人能楽協会・大阪支部 教育特別委員。大阪能楽養成会講師。</p>					
<p>本公演 従事予定者数(1公演あたり) ※ドライバー等訪問する業者人数含む</p>	<p>出演者: 19 名 スタッフ: 2 名 合計: 21 名</p>	<p>運搬</p>	<p>積載量: t 車長: m 台数: 大型バス1台</p>			
<p>本公演 会場設営の所要時間(タイムスケジュール)の目安</p>	<p>前日仕込み</p>	<p>無</p>	<p>前日仕込み所要時間</p>		<p>時間程度</p>	
	<p>到着</p>	<p>仕込み</p>	<p>上演</p>	<p>内休憩</p>	<p>撤去</p>	<p>退出</p>
	<p>11時30分</p>	<p>11時30分から12時30分</p>	<p>13時40分～15時20分</p>	<p>10分</p>	<p>15時20分～16時10分</p>	<p>16時10分</p>
<p>※本公演時間の目安は、午後、概ね2時限分程度です。</p>						
<p>本公演 実施可能日数目安 ※実施可能時期については、採択決定後に確認します。(大幅な変更は認められません)</p>	<p>6月</p>	<p>7月</p>	<p>8月</p>	<p>9月</p>		
	<p>10日</p>	<p>10日</p>	<p>10日</p>	<p>10日</p>		
	<p>10月</p>	<p>11月</p>	<p>12月</p>	<p>1月</p>		
	<p>8日</p>	<p>8日</p>	<p>10日</p>	<p>10日</p>		
	<p>※平日の実施可能日数目安をご記載ください。</p>		<p>計</p>	<p>76日</p>		



(図1)

体育館舞台上に立体的な老松を設置し、いつもの体育館を、瞬時に能の舞台に変えて事業を実施します。(30分程度で設営でき、撤収も30分以内に終わります)。これまで、他の事業も含め、全国で1000校近い学校で事業を実施しましたが、能の上演にはあまり大きなスペースが必要ではないため、ほとんどの学校の体育館の舞台で公演を実施しました。

舞台設置に必要な面積 約4m×8m



(図2・3)

子ども達が、興味関心を持ちやすいように、約5分間ごとに新しい話題を提供し、クイズ形式なども取り入れて、持続的に興味・関心が持てるよう導きながら、能に対する基礎知識を説明する。楽器の演奏並びにそれぞれの楽器の説明もおこなう。



(図4・5)

狂言についての説明をおこなう。狂言の「型」、泣く、笑うや「名乗り」などをその場で実際にやってみる。「柿山伏」についての解説を行った後、狂言「柿山伏」を鑑賞する。



(図6・7)

能「羽衣」についての解説を行った後、能「羽衣」を鑑賞する。最後の部分は、子供たちが一緒に謡う(または口ずさむ)。最後に子供たちからの質問に応える時間を十分に撮り、あらゆる疑問に答える。挨拶で終わる。

公演に係るビジュアルイメージ
(舞台の規模や演出がわかる写真)

※採択決定後、図面等の提出をお願いします。

著作権、上演権利等の許諾状況	各種上演権、使用权等の許諾手続きの要否	該当なし	該当コンテンツ名	
	該当事項がある場合	権利者名	許諾確認状況	

※A4判3枚以内に収まるように作成してください。

別添	あり		
【公演団体名 公益財団法人山本能楽堂 】			
ワークショップのねらい	<p>1. ユーモアを交え、楽しく、わかりやすく、自然な形で能全般に対する知識を持てるよう興味を促す。</p> <p>2. 能の基幹をなす謡(うたい)を、観世宗家の許可を得て独自に開発したオリジナルテキストを用いて、子ども達が能の謡を体得できるよう指導する。ゲームで学べるアプリも副教材として使用する。</p> <p>3. 校歌を謡にすることで、能のリズムを子ども達が楽しく、自然に体得することができる。</p> <p>4. 日本の伝統工芸の粋である「本物の伝統工芸」に触れ、その魅力を知ることができるよう導く。</p> <p>5. 能装束の着付けを先生や生徒に行うことで、能に対する親近感をうみ、関心を高める。</p> <p>6. 生徒からの様々な質問に答え、ふりかえりを行うことで、本公演への期待を高める。 *別添あり</p>		
児童・生徒の参加可能人数	ワークショップ	参加人数目安	10人から600人程度
ワークショップ実施形態及び内容	<p>標準90分</p> <p>①始まりの挨拶<5分></p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育館または多目的室などに集まった子ども達の前に、「着物(和服)」を着た、能楽師(シテ方)が登場し、まずは、大きな声で、生徒の皆さんにご挨拶をします。お辞儀の仕方なども指導します。 *子ども達は少しお互いに距離をあけて、座っていただきます。(学校側の指導に従います) <p>②能と狂言についてのお話 <10分></p> <ul style="list-style-type: none"> ・能の狂言について、その歴史から、わかりやすく説明をします。子ども達の学年に応じて、高学年、中学生であれば歴史の授業と連動させた内容でお話します。 <p>③能面の説明(小飛出、小面、若女、深井、姥、泥眼、般若、しかみなど) <10分></p> <ul style="list-style-type: none"> ・能面を6種類用意して、その違いを説明します。特に、能の代表的な能面である小面(こおもて)を中心に、若女、深井、姥など、女性の年齢によって能面が変化して表現されることや、泥岩、般若など、精神状態やその内面が、約650年前からどのように表現されてきたかを、現代社会と対峙させて説明をします。女性の鬼と男性の鬼の違いも説明します。さらに、能面のわずかな傾きで、様々な感情が表現され、表情が変わることを子ども達に実感してもらいます。 *能面はあらかじめ専用のカバンにに入れて用意してすぐに取り出せるよう準備をしておきます。また、後ろの方の子ども達も見ることができるよう補助者の能楽師が、能面を持って、子ども達の近くまで持っていきます。 <p>④学校の校歌を「謡(うたい)」でうたおう! <5分></p> <ul style="list-style-type: none"> ・あらかじめ、学校の先生から教えてもらった学校の校歌を、「謡(うたい)」でうたいます。効果は七五調で作られていることが多いため、「謡」でうたうことができます。 <p>⑤能「土蜘蛛」についてのお話<10分></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「土蜘蛛」のお話について説明をします。特に月との関係を伝説をもとに説明をおこない、子ども達の興味を引き出します。 <p>⑥能の謡の体験<10分></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「謡」について興味が出たところで「土蜘蛛」の謡をみんなで練習します。観世御宗家から許可を得て作成しているオリジナルのテキストを使用します。テキストには子ども達が興味を持てるようマメ知識も掲載しています <p>⑦すり足体験と能の「型」について <10分></p> <ul style="list-style-type: none"> ・体を使って、その場ですり足や、能の「型」を体験し、能の身体表現について学びます。 <p>⑧能装束の説明と着付<15分></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の先生に能衣装を着けさせていただき、能姿になって頂きます。 *先生とは事前に打ち合わせを行い、先生の足のサイズの足袋を用意し、先に履いていただきます。 *身近な学校の先生が「能姿」に変身する事で、子ども達の興味が倍増し、楽しんで学べます。 <p>⑨質問コーナー <10分></p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども達の素朴な疑問から、ありとあらゆる質問に答えます。 *大変大切にしている時間なので、少し長い時間を取らせて頂いています。 <p>⑩終わりの挨拶<5分></p> <ul style="list-style-type: none"> ・本公演への期待が膨らむよう、子ども達に内容について紹介し、元氣よく終わりの挨拶をします。 *休憩が必要な場合は、学校の先生に相談して、10分程度の休憩時間をもうけます。 *別添あり 		
その他ワークショップに関する特記事項等	<p>*興味を持った子供たちが、より深く学び、興味・関心を持続できるよう、当財団がオリジナルで開発した5種類の能楽を楽しむ学習アプリ、デジタル教材(3D能面、3D能楽堂)、能の5分間動画などを学校の先生に相談して、紹介します。</p> <p>*すべて無料で誰でもダウンロードができ、アプリによっては、日英のバイリンガル対応になっていますので、海外から編入してくるなどして、日本語よりも、まだ英語の方が特異な子ども達も、無理なく日本文化を学ぶことができます。 *別添あり</p>		

※A4判3枚以内に収まるように作成してください。

別添	あり
----	----

本事業への応募理由

【公演団体名

公益財団法人山本能楽堂

】

<p>本事業に対する 取り組み姿勢、および 効果的かつ円滑に実施 するための工夫</p>	<p>①本事業に対する取り組み姿勢</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.日本を代表する伝統芸能である能楽の普及と継承。室町時代へとつながる日本人としての誇りの継承を自発的に楽しく学べる事業を行い、現代において日常生活の中であまり接する機会の少ない古典芸能に対する鑑賞能力を養い、将来の芸術家の育成へとつなげ、次代へとユネスコ世界無形遺産である能の魅力伝えていきたい。 2.子ども達が能楽に触れ、実演経験、鑑賞経験をすることで、その基幹をなす日本人としての美意識や価値観を体感し、さらには総合的に日本の美しさを感じることでできる感受性を育み、新たな発想力を身に着けることができるよう促したい。 3.子ども達に加え、教育現場にいらっしゃる教員の先生方への伝統芸能への理解を深めていただき、今後の授業に活かして頂きたい。 4.能の中に含まれる道徳や価値観、ものの考え方を通して、他者との共生、コミュニケーション能力を育ませて頂きたい。 5.子ども達が感受性の強い幼少期に「本物の芸術」に触れることで、子ども達の心の中に、芸術を鑑賞し、学ぶ楽しさを育てていきたい。 6.事業を継続して実施させて頂く事で、培ったノウハウや経験を広く一般に公開し、学校教育の現場等で役立てていきたい。 7.給食を生徒の皆さんと一緒に食べたり、休み時間に子ども達と接する事で、子ども達とのコミュニケーションを深め、ささいな会話の中から、人生について、職業について等、子ども達が自分自身の将来を考えるきっかけを作っていきたい。(コロナが収束している場合) 8.学校の授業で行われている、国語、社会(歴史、地理)、音楽などの授業と連動させ、学校での授業での集大成となるような総合的な授業となるよう取り組んでいきたい。 9.地域における民俗行事、風習、言い伝えなどと関連づけ、自分たちの住んでいる場所、地域への愛着を深め、そして想像力を広げ、その範囲を国、地球へと広げていきたい。 10.「withコロナの時代」を迎え、大人も未来に対して不安を感じる中、子ども達が未来に対して明るい夢や希望を持てるように、能の力で貢献したい。 11.能はサステイブルな芸能であり、持続可能な社会の実現のためのヒントが多く内包されている。SDGsの目標とも関連づけて、その魅力を伝えていきたい。 12.何よりも子ども達に能・狂言を「面白いな!」と感じて頂き、伝統芸能への興味・関心を引き出し、日本文化を継承して欲しいと切望します。 *別添あり <p>②事業を効果的かつ円滑に実施するための工夫</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.事前に実施校へ本事業の主旨と目的について伝え、本事業に対する理解を深める。 2.ワークショップ実施の1~2週間前にワークショップの内容の確認を行う。 3.ワークショップで訪れた際に、必ず打ち合わせの時間をもうける。 4.ワークショップ時も、できるだけ生徒と一緒に給食を食べる。(コロナが収束した場合) 5.ワークショップ終了後、フィードバックを行い、問題点や反省点があった場合、本公演で改善できるよう学校側と話し合う。ない場合は、より効果的に事業が実施できるよう、学校側からの希望があれば受け入れる。 6.本公演実施の1週間~2週間前に再度本公演に対する確認を行う。 7.本公演の実施前に、本公演の概要について確認を行う。 8.本公演時も給食を生徒と一緒に食べ、コミュニケーションをはかる。(コロナが収束している場合) 9.本公演終了後、フィードバックを行い、良かった点、悪かった点などとりまとめ、次回の公演に活かす。 10.学校側とのやりとりは、1人の担当者が最初から最後まで継続して行う。 11.学校側とのやりとりは、口頭で行った場合も、すべて書面にして相互確認を行う。 12.当財団は、1999年より子供たちへの能楽普及の取り組みを続けており、子供たちが気軽に、日常的に能や日本の伝統芸能を楽しめるよう、5種類の無料アプリを開発し、誰もがダウンロードして楽しめるようにしている。また、③D能面や能楽堂の新たなデジタルコンテンツに加え、マルチアングル配信の動画、YouTubeで5分間で様々な演目を楽しめる「能の五分間の動画」など、時代に即した様々なコンテンツを用意している。特に今回上演する「羽衣」は、様々な角度から多彩なコンテンツを用意しており、子供たちの継続的な学びにつながるよう、活用している。 *当たりの事であるが、たばこを吸う者、言動が汚い者、マナーの悪い者は、出演者に加ええない。本事業に関わる全てのメンバーが大人として子ども達にいつ見られても恥ずかしくない振る舞いをするよう心がけて本事業に取り組ませて頂きたい。 *別添あり
--	--

別添 ※別添は1企画につき3枚までとします。※文字のポイントの変更は認めません。

リンク先	No.1	【公演団体名 公益財団法人山本能楽堂】
------	------	---------------------

(学校等における公演実績)

学校等におけるこれまでの公演実績が認められ、「小学社会6年上」(文教出版社)の教科書、振り返りシートなどの制作に協力。



◇デジタル教科書の制作にも協力

副教材として学校の先生方にご活用頂いています。

- ・能についての説明
- ・能楽堂について
- ・能の道具について
- ・狂言について



学校等における公演実績
特別支援学校における公演実績

(特別支援学校における公演実績)

◇視覚障害者、聴覚障害者、知的障害者、肢体不自由者、または病弱者(身体虚弱者を含む)の方、それぞれに応じた公演を実施させて頂いてきました。



◆特別支援学校の先生のご発案により、史上初の能楽の無料楽器演奏アプリ「OHAYASHIsensei」を開発し、能の音楽の普及につとめてきた。

◆特別支援学校での本アプリ活用の事例が全国的に広がりつつある。



別添 ※別添は1企画につき3枚までとします。※文字のポイントの変更は認めません。

リンク先	No.2	【公演団体名	公益財団法人山本能楽堂】
<p>本公演演目</p> <p>演目概要</p> <p>演目選択理由</p> <p>児童・生徒の共演,参加 または体験の形態</p>	<p>(本公演演目/演目概要)</p> <p>能「土蜘蛛」と狂言「柿山伏」は、長年日本で親しまれてきた、能を代表する演目です。そこには日本人が古来大切にしてきた精神性や価値観が内包されています。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="496 427 1046 779">  <p>能「土蜘蛛」</p> </div> <div data-bbox="1098 427 1350 779">  <p>狂言「柿山伏」</p> </div> </div> <p><能面や能に使用する小道具の展示></p> <p>学校側の希望があれば、休み時間等に子ども達が様々な能面の種類や魅力に触れられるよう、公演会場となる体育館の周辺(内部あるいは通路など)に能で使用する小道具や多彩な能面の展示を行い、子ども達の能に対する理解や興味を深めます。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="469 963 959 1265">  </div> <div data-bbox="986 963 1417 1272">  </div> </div> <p><能「羽衣」のあらすじを5分間のアニメで上演することが可能です。></p> <p>学校側から希望があれば、能「羽衣」のあらすじを5分間のアニメにまとめたものを、能「羽衣」の上演前、もしくは休み時間にプロジェクターで会場内で投影し、子ども達の理解を深めることができます。事前にデータでお渡しして、能の公演の前日などにご活用頂くことも可能です。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="419 1559 983 1863">  </div> <div data-bbox="995 1559 1428 1863">  </div> </div>		

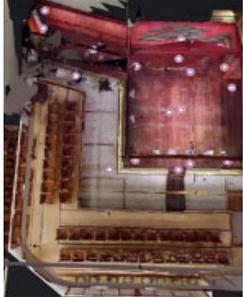
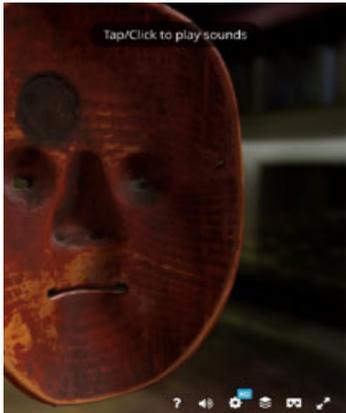
別添 ※別添は1企画につき3枚までとします。※文字のポイントの変更は認めません。

リンク先	No.2	【公演団体名	公益財団法人山本能楽堂】
<p data-bbox="209 909 339 994">本公演演目 演目概要</p> <p data-bbox="196 1167 352 1193">演目選択理由</p> <p data-bbox="142 1308 408 1364">児童・生徒の共演、参加 または体験の形態</p>	<p data-bbox="419 259 539 286">能「土蜘蛛」</p> <p data-bbox="419 286 1447 394">源頼光が病床に臥せている処へ、典薬の頭(医師)の使いで、胡蝶という女が見舞いに来て、頼光を慰めて帰った後、夜中に僧形の者が訪れ「わが背子が来べき宵なりささがにの くもの振まいかねて知るしも」の古歌を引いて病床に近づくや蜘蛛の糸をくり出して頼光を苦しめる。枕元にある愛刀「膝丸」を抜いて立ち向かい切りつけると、怪僧は蜘蛛の糸をくりかけて行く方知らず失せる。</p> <p data-bbox="437 394 504 421">(中入)</p> <p data-bbox="419 421 1426 477">頼光はかけつけた家臣・独武者に蜘蛛退治を命じる。独武者は家衆を従え葛城山に登り、蜘蛛の栖(すみか)を見つけ、多勢とりこめて蜘蛛を切り伏せる。</p> <p data-bbox="437 477 1257 504">能の中でも動きの多い場面転換の目まぐるしい能で、視覚的たのしみを満喫させる。</p> <p data-bbox="419 504 1436 551">源頼光は大江山の酒吞童子を退治した勇者だが、この土蜘蛛の話も、平安朝での中央の権力と地方の反目する勢力との拮抗摩擦とも受けとられる。</p> <div data-bbox="456 595 986 958">  </div> <div data-bbox="448 965 986 1328">  </div> <div data-bbox="1031 663 1406 1234">  </div>		<p data-bbox="419 1413 564 1440">狂言「柿山伏」</p> <p data-bbox="419 1440 1447 1597">山伏が修行を終えて故郷に帰る途中、のどが乾いてしまい、ふと見あげると見事な柿があることに気づきます。木の下から落とそうと試みますが、中々巧いかなかったので、木に登って柿を食べていました。ところが、誤って口にしてしまった渋柿を投げ捨てたところ、見廻りに来ていた柿の持ち主に渋柿が当たってしまい、無断で柿を食べていたことに気づかれています。柿の木に登っているのは犬だ、猿だ、鳥だ、鳶だと言われる度に、それらの動物の鳴き真似でその場を凌ぐものの、しまいに鳶は飛ぶものだ、と言われてしまい、結局飛んでは見るものの、大怪我をしてしまい悪事がばれてしまいました。</p> <div data-bbox="440 1637 1010 1977">  </div> <div data-bbox="1086 1637 1401 1977">  </div>

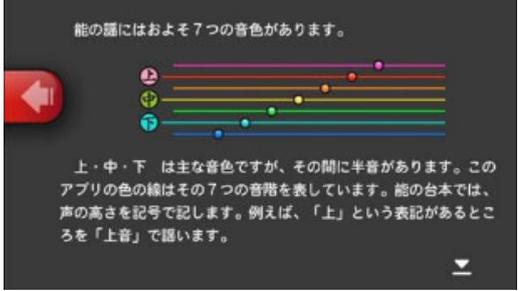
別添 ※別添は1企画につき3枚までとします。※文字のポイントの変更は認めません。

リンク先	No.2	【公演団体名	公益財団法人山本能楽堂】
児童・生徒の共演,参加 または体験の形態	<p><公演に字幕をつけさせて頂くことも可能です> 学校側のご希望があれば、能の上演時に「字幕」をつけさせていただくことが可能です。 「羽衣」は物語もわかりやすく、能の詞章そのまま、意味ははっきりとわからなくても、室町時代から詞章をそのまま聞いて、子ども達に「感じて」頂くアプローチと、「字幕」に室町時代そのままの詞章と現代語訳を掲示し、意味をきちんと把握できるようにするアプローチと2方向が考えられるため、準備をさせて頂き、学校側の希望に応じさせて頂きます。</p> 		
	<p><終演後に> 1.学校側の理解が得られれば、子どもたちに感想文を書いていただき、それに対するお礼状や当財団からの感想を学校に送付し、子どもたちに伝えてもらうことで、単なる一過性の公演ではなく、交流を行うことで相互理解を深め記憶に長く留めて頂きます。 2.各学校の校歌を「謡」にした音源を学校側にお渡しさせていただき、稽古を重ねていただくことで、例えば終業式、あるいは卒業式などの式典で子どもたちに発表していただくことも可能です。ご希望であれば、DVDで指導法をお渡しさせていただきます。 3.学校側の理解が得られれば、子ども達が自宅に帰られた後、保護者の方と一緒に能についてお話ししたりできるよう、インターネット上の動画で能についての解説をおこない、保護者の方と一緒にご覧いただき、ご家族で舞台芸術の体験の思い出を共有し、能に対する理解を深めて頂くこともできます。 4.また、独自に開発したアプリを活用し、「羽衣」のアニメをご覧頂いたり、能について学んで頂いたり、能面神経衰弱などのゲームでご家庭で遊んで頂くこともでき、能の世界を膨らませて頂けます。</p>		
<p><教員の先生方ならびに保護者の方へのワークショップ> ●学校側から希望があった場合、教員の先生方ならびに保護者の方を対象としたワークショップまたは能のお話を実施させて頂くことが可能です。 ●開催時間、内容に関しては、学校側のご要望に応じ、個別に対応させて頂きます。 ●また、教員の先生方に向けて、教育現場でどのように能をはじめとする伝統芸能の授業をおこなえばよいか、具体的に相談に応じさせていただきます。 ●開催時間、内容に関しては、学校側のご要望に応じ、個別に対応させて頂きます。 また、教員の先生方に向けて、教育現場でどのように能をはじめとする伝統芸能の授業をおこなえばよいか、具体的に相談に応じさせていただきます。</p>			

別添 ※別添は1企画につき3枚までとします。※文字のポイントの変更は認めません。

リンク先	No.2	【公演団体名 公益財団法人山本能楽堂 】
<p>児童・生徒の共演,参加 または体験の形態</p>	<p>◇3Dスキャン能楽堂</p> <ul style="list-style-type: none"> ・能楽堂内に置かれたサインをクリックすると、能舞台について学ぶことができる。 ・能舞台の床下に置かれている甕の部分にも自由に歩いて見ることができる。    	<p>◇3Dスキャン能面(小面、般若)</p> <p>江戸時代に作られた能面の裏も表も自由に手に取るように楽しむことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肉眼では見ることのできない、詳細な部分も拡大して閲覧することが可能。 ・能楽師・山本章弘による能面の解説を聞きながら自由に楽しむことができる。   

別添 ※別添は1企画につき3枚までとします。※文字のポイントの変更は認めません。

リンク先	No.3	【公演団体名 公益財団法人山本能楽堂】
<p>ワークショップのねらい</p> <p>ワークショップの実施形態及び内容</p> <p>その他ワークショップに関する特記事項</p>	<p>①観世宗家の許可を得て、子ども達に向け独自に開発したオリジナルテキストを用いて、子ども達が能の謡を体得できるよう指導する。能の謡(詞章)は、現代には使われていない言葉も多いが、日本古来の美しい日本語の響きやリズムを有するため、子ども達の日本人としての遺伝子に反応し、驚くほど早いスピードで習得する。そして、子ども達が謡を思わず口ずさんでしまうようになった時、子ども達の頭の中に、美しいパノラマの世界が現れ、連綿と続く日本人としてのアイデンティティを確立することができる。その結果、本物の能の公演に、みんなで地謡として共演する事ができたなら、何物にも変えがたい貴重な体験、楽しい思い出となるのではないだろうか。そして、その経験は成長してからも、身体の奥深い部分に残り、生涯を通して価値ある財産となりえる。必要であれば独自に開発した能の謡を習得するアプリを使用する。</p>   <p>②日本を代表する伝統芸能でありながら、「敷居が高い」と思われがちな能楽を実際見ることで、子どもたちに大きな刺激と感動を与え、子ども達の大切な思い出とすることができる。能は「高尚である」と思われると同時に、「訳が分からないもの」「自分とは関係のない演劇」という印象を持たれやすいが、感受性の強い幼少期に子ども達が「みんなで一緒に作り、みんなで一緒に楽しんだ」という経験を持つことで、将来の芸術家の育成や、大人になってからの芸術鑑賞能力の向上につなげることができる。</p> <p>③校歌の歌詞は、七五調で作られていることが多いため、能の謡(うたい)の節づけを容易に行うことができ、謡への変換が可能である。子どもたちが常日頃から親しんでいる各学校の校歌を謡でうたい、子どもたちも一緒に練習し謡うことで、謡について子ども達が慣れ親しむ素地を作り、本公演での能の鑑賞の理解へとつなげていく。校歌を謡にし、子ども達に教えることで、能の根幹をなす謡(うたい)のリズムを子ども達が楽しく、自然に体得することができる。これまでの経験では、校歌を謡にすることで、強制しなくても、自発的に毎日お互いに校歌の謡をうたいながら遊ぶと確信する。</p> <p>④能で使用される能面や能装束は、日本の伝統的な工芸技術の粋の結集であり、美術品としての価値も高く、貴重であるが、そのような「ほんもの」を子ども達が実際に目にし、身近に触れることで、工芸の美についての理解を深める貴重な体験の機会を創出する。</p>   <p>⑤能装束の着付けを、担任の先生や生徒が行い、瞬時に能の登場人物に変身することで、「日常が非日常に劇的に変わる舞台芸術の面白さ」を子ども達が体感することができる。(コロナが収束している場合)</p> <p>⑥終演後は子ども達からの質疑応答を受け付け、お互いに感想を述べ合うことで、より深い満足感と充実感を子どもたちが感じるよう導く。ふりかえりの時間を設ける。</p>	

別添 ※別添は1企画につき3枚までとします。※文字のポイントの変更は認めません。

リンク先	No.3	【公演団体名 公益財団法人山本能楽堂】
<p>ワークショップのねらい</p> <p>ワークショップの実施形態及び内容</p> <p>その他ワークショップに関する特記事項</p>	<p>1.今までに多くの特別支援学校で能に関する事業を実施させて頂いてきたが、特別支援学校は、視覚障害者、聴覚障害者、知的障害者、肢体不自由者、または病弱者(身体虚弱者を含む)が通われているかによって、それぞれに対応した授業が求められ、また事前に先生方と綿密な打ち合わせをおこなう等、細心の注意が必要である。</p> <p>肢体不自由者、または病弱者(身体虚弱者を含む)の方については、特別な事をしなくても、同じように楽しんでいただいたり、一般の生徒の教室と一緒に参加していただいていた。</p> <p>視覚障害者の方の授業では、手で触れることのできる能面や、能面の表面の仕上げがされていない状態のものなどを触って違いを楽しんで頂いたり、様々な材質の違う能衣装の布地の触感の違いを楽しんで頂き、大変喜んで頂いた経験を持つ。</p> <p>2.ただ、説明などよりも「音」やリズムを楽しんで頂き、できるだけシンプルな授業を行わせて頂くのが一番よいと思うので、ワークショップの内容は能の楽器(囃子)を中心とし、楽器演奏や、能のリズムを中心とした内容を実施してきた。</p> <p>3.また、子ども達に能を教えるためには、学校の先生方にまず能を楽しみ、理解して頂かないといけないということに気が付き、約10年前から学校の先生方を対象とした3日間の能の寺子屋教室(3日間の集中ワークショップ)を毎年実施してきた。そして、その中の振り返りの意見交換会で、特別支援学校の先生から、「子どもたちにiPadで能の楽器を教えることができればいいのに」というご意見を頂いたことをきっかけに、史上初の能楽アプリ「OHAYASHIsensei」を開発し、無料で公開している。このアプリによって、特別支援学校の子供たちはもとより、一般の子供たちも、容易に能の音楽に触れることができるよう工夫をこらし、子どもたちがいつでも手軽に能の楽器を楽しむことができる環境づくりに取り組んでいる。</p> <div data-bbox="427 869 928 1176"> </div> <div data-bbox="938 869 1436 1176"> </div> <p>4.「音」に関しては、能の囃子は普段耳にすることができない非日常的な「音」でもあると思うので、生徒の中に驚いたり、ショックを受けたりする人がないかあらかじめ学校の先生と打ち合わせを重ね、授業を実施していきたい。</p> <p>5.特別支援学校で公演を実施させて頂くときは、特に事前に先生方と詳細に打合せを重ね、公演を実施しているが、1校、1校、毎回違った事案があるので、終演後は先生方からご意見を頂き反省点を振り返ることで、ノウハウを蓄積し、特別支援学校ならではの楽しんで頂ける公演づくりを目指したいと考えている。</p> <p>6.場合によっては、本公演時、地謡ならびにハタラキの能楽師の一部を、生徒のみなさんの中に配置し、細やかに対応させて頂く工夫が必要な場合もあると考え、いつも現場で臨機応変な対応を心掛け、最善の効果が生まれるよう、ワークショップならびに本公演に取り組んでいる。</p> <div data-bbox="427 1534 893 1881"> </div> <div data-bbox="917 1534 1396 1881"> </div>	

別添 ※別添は1企画につき3枚までとします。※文字のポイントの変更は認めません。

リンク先	No.4	【公演団体名 公益財団法人山本能楽堂】
①本事業に対する取り組み姿勢	<p>1.学校の授業で行われている、国語、社会(歴史、地理)、音楽などの授業とできる限り運動させ、学校での授業での集大成となるような総合的な事業を行わせて頂きたい。 650年の歴史によって育まれてきた能楽は、その中に学校の授業で行われている様々な授業内容を含んでいる。例えば、能の詞章(謡)は国語、物語には歴史、能装束には美術、能の楽器には音楽。いわば、能について子ども達が学び体験することは、それだけであらゆる事業を総合化したものだとも言うことができると思うが、本事業においては、そこからさらに踏み込んで、学校で現在教えられている授業とも連動させ、より子ども達の身近における現場で、芸術の持つ総合的な魅力を伝えていきたい。</p> <p>2.能の謡(詞章)は、日本文化の粋を集めた、非常に美しい日本語で構成されている。その独特の美しい言葉の響き、日本人ならではの間合いやリズムを、感受性の高い時期に、身体全体で感じ、体感してほしいと願っている。謡の一語一語の内容がたとえわからなかったとしても、全体の流れや、節回しを心で感じとる事は、その後の人生にとって何よりの大きな彩りをもたらす貴重な経験になると信じている。 能を実際に見たことのある人は人口の1%程度であるとの調査結果を目にしたことがある。650年の伝統があり、ユネスコ世界無形遺産であり、日本を代表する伝統芸能といわれている能楽であるが、現代において、急速に興味が薄れつつあるように、現場で感じている。その一番大きな理由は、かつては祖父母や両親、あるいは近所の人々が親しんでいた能楽に、子ども達が子どもの頃から自然に親しむことのできる土壌が かつての日本にはあったのが、生活様式の急激な変化や趣味の多様化により、子ども時代に日本の伝統文化に触れる機会が極端に減ったことにも要因があると考えられる。そこで、当財団では、年間を通じて子ども達に向けた様々なプログラムを用意し、子ども達への能の普及活動につとめているが、自発的に能楽堂に来る子ども達だけでなく、学校教育の現場で、子ども達が直に能の魅力に触れることのできる機会が何よりも大切であると考えている。</p> <p>3.能は室町時代から変わることなく、継続して演じられてきた世界最古の仮面劇であるが、そこには日本文化の粋が凝縮され伝え続けられてきている。能を彩る能面や能衣装などの様々な工芸品には、日本人にとっての長年の英知と美意識が集約されている。山本能楽堂プロデュースの多彩な子どもワークショップで培ったノウハウにより、子ども達に短時間で楽しく謡いを指導することが可能である。幼少期の多感な時期に「謡」の独特なリズムや発声法に子ども達が触れることで、日本の伝統芸能の真髄を体の中に生涯変わらぬ貴重な財産を子ども達が持つことができるようになることを考え、また今回の事業がそのようになるよう、精進して指導させて頂くつもりである。</p> <p>4.教育現場にいらっしゃる教員の先生方への伝統芸能への理解を深めていただきたい。 また、近年私共の能楽堂ではよく、小学校、中学校、高校の教員の先生が体験講座などにご参加頂く。理由をお伺いすると「自分自身が能に対する知識が希薄なのでどのように現場で子どもたちに教えればよいのかわからないので勉強しに伺った」との事である。本事業は、ワークショップと本公演の2回、学校を巡回させて頂く機会を与えられることから、本事業により単に子ども達に芸術鑑賞の機会を持って頂くだけでなく、学校現場の教員の先生にも、伝統芸能に対する理解を深めて頂き、本事業終了後も学校教育の現場での指導に役立てて頂けるよう、事業をすすめていきたい。</p> <p>5. 能の中に含まれる道徳や価値観、ものの考え方を通して、他者との共生、コミュニケーション能力を育ませて頂きたい。 本事業で実施させて頂こうと考えている演目の「羽衣」には、日本人特有の道徳的要素が含まれ、子ども達はこの演目を体験することで、同時に一つの物語または昔話を学ぶことが可能である。幼少期に、道徳観念を育むことにはある意味とても大切なことのように思うが、現代社会においては、生活様式の変化により、大人から子供に道徳や社会の一員としての価値観が伝えられる機会が減っているように感じている。能の中には、連綿と続く、日本人としての生き方の美意識や価値観が内包されており、子ども達が能の体験活動や観賞をおこなうことで、自然にそのような「大切に思う気持ち」を育む事ができると考える。</p> <p>6.子ども達が幼少期に、多彩な芸能や舞台芸術を楽しみ、自分の中の感受性の引き出しを広げておくことは、その後の人生をより豊かでカラフルに彩るために、とても大切なことであると考えている。芸術は、いわば心の栄養剤のようなものであり、人生の中で、落ち込んだり、悲しい思いをした時はその心を慰め、楽しい喜びの時にはその嬉しさを何倍も助長する働きがあると考えている。また、芸術に触れ、感動することは、新しいものの見方や視点や経験を広げることであり、それでこそ、古き時代より芸術は大切に守られ継承されてきたのだと考える。長い人生には何が起こるかかわからない。その時に、立ち向かうことのできる勇気や向上心を支えるものが芸術で有り、子ども達が幼少期に芸術に触れ、それらを受け入れることのできる土壌を子ども達自身の心の中に構築することは、その後の人生にとって得がたい貴重な経験になると考える。</p>	

別添 ※別添は1企画につき3枚までとします。※文字のポイントの変更は認めません。

リンク先	No.4	【公演団体名 公益財団法人山本能楽堂】
<p>①本事業に対する取り組み姿勢</p>	<p>7.本事業で、日本各地の学校を巡回させて頂き、子ども達に「生の本物の芸術」を体験して頂くことは、演じる側にとっても何よりも得がたい貴重な経験である。そして、その回数が増えれば増えるほど、「どのように伝えれば心まで伝わるのか」「子ども達の関心を高めるにはどうすればいいのか」といったノウハウが自然に蓄積されていく。 本事業に申請し、学校を巡回させて頂く事は、次世代に古典芸能を伝承させて頂く立場として、大切な時間となっている。</p> <p>8.昔の古き良き時代の日本では、地域ごとに風習や民俗行事が継承され、自然と共生したその地域ならではの豊かな文化が育まれてきた。しかしながら、高度成長期を迎えた頃から地方から都会へと人口が流出し、地方固有の土着の文化は忘れ去られたり、軽く扱われたり、中には消滅してしまったものも多くある。東京や大阪などの大都会においても同様であると考え。能は650年の歴史の中で、地域ごとの特色や、地元の文化を取り入れながら大成されてきた経緯があり、地域の風習や民俗芸能と共通する要素も多く含む。本事業で全国の小学校を巡回させて頂く中で、できれば、その地域固有の伝承や風習についても調査し、関連づけて事業を行うことで、子ども達の意識の中に、文化の多様性、その地域で育まれたことへの誇りを喚起し、さらにはその意識を日本、世界、地球へと広げていき、未来へと向かう可能性を育ませて頂きたい。そして、そのような事が行えるのは芸術の持つ底力であり、芸術の幅の広さであると考え。</p> <p>同時に、グローバル化する国際社会の中で、子ども達が成人した暁にはますますボーダレスな世界になると想像するが、そのような時代を迎えたときに、本事業が子ども達が「日本人としての心」を育み、アイデンティティを確立することができるきっかけを、その一番最初の土壌となることを切望している。</p> <p>9.能楽は650年以上、災害や戦火、歴史の変革など幾多の試練を乗り越え、文化を紡いできた。700年近い間には、ペストやコレラなどの疫病による社会変動の時期もあった。新型コロナウイルスの被害拡大のため先行きが不透明で、大人も不安でストレスを多く抱える時代に、子ども達が自己のアイデンティティを持ち、能の力で「未来を信じる」気持ちを持ち、前向きに進んでいくことができるよう、導いていきたい。</p> <p>650年間の長期にわたり、途切れることなく継承されてきた能楽の中には、数々のサステナブルな要素がある。音響・照明機材などの電力を使用しなくても、本来人間が持つ「人間力」だけで公演が成立する芸能であり、使用する能面や能衣装をはじめ楽器、小道具に至るまで、その大部分が1回限りの使い捨てではなく、大切に何百年も使い続けられる。新型コロナウイルスの被害拡大や世界規模の地球温暖化とそれに伴う異常気象は、大量生産・大量消費社会がもたらしたものだともいわれている。一昔前の日本人が大切にしてきた「物を大切に作る心」は能の中に残されており、子ども達にその側面も伝えたい。</p>	

別添 ※別添は1企画につき3枚までとします。※文字のポイントの変更は認めません。

リンク先	No.4	【公演団体名	公益財団法人山本能楽堂】
<p>②事業を効果的かつ円滑に実施するための工夫・内容</p>	<p>1.「興味深く面白い事業を実施すること」で面として能の魅力を伝承 まず第一に「興味深く、面白い事業を実施すること」が大切だと考えます。昨今、学区が違って、塾や習い事で同じ地域内にいる子ども達の交流が多くみられます。「面白い能楽の鑑賞会やワークショップ」を実施すれば、必ず子ども達の中で、話題になります。地道で草の根的な方法ですが、複数年にわたり同じ地域で集中して能楽の事業を実施する事で、子ども達の中に「能楽は楽しい！面白い！」という循環が起こるよう取り組んでいきたいと考えます。</p> <p>2.出演者が地域の文化を理解し馴染むことでよりスムーズな事業が実施可能 複数年にわたり、同じ地域で事業を実施する事で、講師たちがその地域独特の文化や方言を身に着けることができ、その経験を事業に活かし、子どもたちにとってより身近で親しみやすい存在として、能楽に対する導入をよりスムーズに興味深く行うことが可能になります。公演やワークショップの満足度を高めるためには、レベルの高い難しい内容を教えるのではなく、より身近に楽しんで、集中して参加することが何より大切であると考えます。最初のとっつきにくい、難しそうに思えるバリアさえ取り外すことができれば、子ども達の心の中にスムーズに入っていき事が出来、その結果、より質の高い事業を実施し、奥深い感覚の部分まで子ども達に伝えることができると考えます。</p> <p>3.教員の先生方の理解を育みネットワークを構築 子ども達への質の高い公演やワークショップを実施するためには、子ども達に日々接せられる教員の先生方の理解と関心が何より不可欠であると考えます。複数年同じ地域で事業を実施する事で、より効率的に、円滑に事業を行うことが可能なため、空き時間を活用して、教員の先生方に能楽に対する理解を深めて頂くため、ワークショップなどを複数回実施することも可能です。先生方から先に能楽を好きになって頂き、子ども達が公演やワークショップに楽しみに参加し、事業終了後も、先生方が、子ども達の疑問に答え、子ども達が能楽に対する関心を持続して持ち続けられるよう、指導して頂くことで、よいサイクルをまわし、生活の中に能楽が自然に溶け込むことが可能になると考えます。(独自に開発した能の教育アプリが、補助的に有効に活用が可能です)</p> <p>4.実施校以外の先生方が視察に来られる仕組みを構築し事業につなげる。 能楽は教員の先生方にとっても「敷居が高い」イメージが定着しているため、募集をかけても、敬遠される先生方が多数いらっしゃる事が容易に想像できます。そこで、最初の1年目の開催校でのワークショップおよび本公演の様子を、地域の他の学校の先生方が視察に来ることができるような仕組みをつくり、ワークショップや公演終了後に他校の先生方からの質疑応答に応じ、意見交換できる場を設けることで、次年度以降の開催につなげていければと思います。また先生方も、実際に公演やワークショップを事前に体験することで、疑問や不安が解消されると同時に、事業の内容に対する要望や期待も高まり、そのニーズに細やかに応じることで、より質の高い公演やワークショップを実施する事が可能です。究極的には、事業の大枠はこわすことなく、細部においてその学校独自のオリジナルなプログラムを実施することが、子ども達の満足度へとつながり、質の高い事業を実施する事ができる。</p> <p>5.その地域の歴史や文化を取り入れ、シビックプライドを構築する。 能の「羽衣」は、日本各地に残された「羽衣伝説」をもとにつくられています。同じ地域で複数年、本事業で「羽衣」を取り上げることで、その地域の子ども達が「羽衣」についてより強く理解を深め、同時に地域に伝わる「羽衣伝説」についても学ぶ機会となります。そして、その地域ならではの歴史や文化と「羽衣」をつなげ、子ども達の心の中に、芸能を通じたシビックプライドを構築し、地域の誇りを持つことへとつなげることができると考えます。また、「羽衣」以外にも、能にはいろいろな日本の歴史的内容が盛り込まれているので、その部分と地域の歴史を連動させ、子ども達の興味・関心を促すとともに、「地域の誇り」を構築することができるように事業を実施することで、より深く、子ども達の記憶に残る体験へとつなげていくことが可能であると考えます。</p> <p>6.地域における格差をなくす 同じ地域で3年間同じ事業を実施する事で、その地域内で、「事業を実施した」、あるいは「実施していない」の格差をなくし、地域全体で面として事業を実施する事で、地域内でのコミュニケーションを育み、連帯感を構築する。 また、伝統芸能である能は、全国的にも身近に見たり触れられる地域(都市部)と、全く関係のない地域があるため、同じ地域で集中的に3年間実施する事で、その地域全体の格差をなくしていく。</p>	 	

別添 ※別添は1企画につき3枚までとします。※文字のポイントの変更は認めません。

リンク先	No.4	【公演団体名 公益財団法人山本能楽堂】
------	------	---------------------

<実施内容について>
 B区分の採択を受けた場合、事務所内で、事務局内で、広報担当者4名を選定し、各回2名で同じ地域内の違うエリアを広報する予定です。
 ・地域内の都道府県・政令指定都市の教育委員会を訪問し、重点地域等をお伺いし、長期的な広報計画や広報先を設定します。
 ・その上で、アンケートの項目を策定し、訪問先でアンケートにご協力頂くことで地域の課題を洗い出します。
 ・合同開催や視察の受入、リモート配信等についてもご紹介をするため、新しい年度を迎えてすぐに、広報活動の準備を行い、実施します。
 ・同地域を回る他団体とも連携をはかり、分野ごとの課題や、解決策、連携体制の構築にもつとめ、事業全体がより良い方向に向かい、効果的に実施できるよう取り組みます。

◇教育委員会との連携
 ・地域内の全ての都道府県、政令指定都市の教育委員会を訪問し、広報を行い連携を行う。
 →教育委員会と日程調整後に訪問し、の広報を行う。
 ・実施校の所在地の市区町村の教育委員会に対する広報。
 →教育委員会と日程調整の後に訪問し、本事業についての広報を行う。
 ・合同開催希望校の情報収集、及び紹介。
 →合同開催希望校の所在地の教育委員会へ合同開催を提案し、調整を依頼する。

◇校長会との連携
 ・年一回以上、一定の地域内の都道府県、政令指定都市が主催する校長会で本事業について広報を行い、各学校での事業の実施を依頼する。合同開催希望の有無も伺い、同地域内での合同開催の調整を行う。

◇他団体との連携
 ・他の実施団体からの視察を受け入れる。
 ・他団体との連携で、実施における効率的な工夫やノウハウ、成功事例などをお互いに共有する。
 →各教育委員会と調整の上、公演パンフレットを学校等教育施設へ配布する。

◇保育所・幼稚園との連携
 保育所、幼稚園に広報及び情報共有を行い、合同開催への参加を促す。

◇事業説明会等での発表
 ・事業説明会等で実施上の工夫や、積み重ねたノウハウ、成功事例などを紹介し、本事業の向上に役立てることができるよう積極的に協力する。

②事業を効果的かつ円滑に実施するための工夫・内容

